

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第297回委員会議事録

1. 日 時 平成23年4月15日(金) 9:30~16:30

2. 場 所 東京工業大学 大岡山キャンパス 西8号館 大会議室

3. 出席者40名 (順不同・敬称略)

委員長: 寺井隆幸(東大)

主 査: 川口雅之(大阪電通大)、児玉昌也(産総研)

幹 事: 稲垣道夫(北大名誉)、安田榮一(東工大)、吉田明(東京都市大)、
遠藤守信(信州大)、豊田昌宏(大分大)、榎敏明(東工大)、小林知
洋(理研)

委 員: 阿久沢昇(東京高専)、飯島孝(新日鐵)、今川博(SEC カーボン)、
岩下哲雄(産総研)、小田廣和(関西大)、鏑木裕(東京都市大)、
近藤純子(東洋炭素)、塩山洋(産総研)、新野仁(物材機構)、戸
田晋次郎(日本電極)、平原聡(三菱化学/代理:原田靖之)、福田
敏昭(東海カーボン/代理:鶴田圭子)、向井紳(北大)、武藤浩行
(豊橋技科大)、山下良(新日本テクノカーボン/代理:菅原利夫)

委 員 外: 押田京一(長野高専)、木村脩七(東工大)、西澤節(神戸製鋼)、菱
山幸宥(東京都市大)、山田能生(産総研)、夏目勇(東海カーボン)、
宮嶋尚哉(山梨大学)

同伴者他: 竹内健司(信州大)、村松寛之(信州大)、斉藤幸恵(東大)、宮澤邦夫(JFE
テクノリサーチ)、曾根田靖(産総研)、吉澤徳子(産総研)、棚池修(産
総研)、山下順也(産総研)

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

第296回議事録(案)を承認した。

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

(委員交代)

SEC カーボン株式会社 黒田孝二委員から今川博委員へ（京都工場 技術開発部 開発グループリーダー）

新日本製鐵株式会社 杉浦勉委員から飯島孝委員へ（先端技術研究所 界面制御研究部 技術開発本部 主幹研究員）

(所属変更)

安田榮一幹事（東工大・名誉教授へ所属変更）

(役職変更)

鏑木裕幹事（委員へ役職変更）

(b) 300回記念シンポジウム（仮称）について

117 委員会は 11 月に第 300 回を迎える。11 月 17 日を記念シンポジウム（特別講演会）として中国・韓国・インド・オーストラリアの各国から学会長クラスの研究者を招待し、各国の活動状況を紹介頂く予定である。学振協力会から事業補助採用通知（70 万円）。

(c) 量子ビーム融合化利用研究について

量子ビーム融合化利用研究に関する先導的研究開発委員会（学振・平成 22.04.01～25.03.31）において H23 年度の科研費新学術領域研究（研究領域提案型）へ応募するも不採択。H24 年度採択へ向けてテーマの見直しが行われる予定。117 委員会としては豊田幹事を中心にもう一年協力する。中性子源である J-PARC、JRR-3 については震災の影響を受け再稼働に相当期間要するとの発表。

(d) 産業界委員からの幹事委嘱について

産学連携を推進するにあたり、将来的に産業界から少なくとも 1 名幹事を委嘱したいと考えている。炭素協会に推薦依頼中。

(e) 次回以降の予定について

H23 第 2 回 (298 回) 7 月 15 日 東京都市大 (会場担当: 吉田幹事)

H23 第 3 回 (299 回) 9 月 9 日 会場未定 (昨年発表分から変更) (会場担当: 児玉幹事)

H23 第 4 回 (300 回) 11 月 17,18 日 東京大 (会場担当: 寺井委員長)

(2) 分科会報告

(117-297-A-1) 面配向試料の 112 回折プロファイル---乱層構造をもつ結晶子中でのグラフ
ファイト構造をもつ結晶子の生成

○菱山幸宥¹, 吉田明², 浜村尚樹³, 鏑木裕³,
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大工²)

(117-297-A-2) 電子受容性ナノ構造体としての単層カーボンナノチューブ

○塩山洋 (産総研)

(117-297-B-1) B/C/N 系層状化合物へのマグネシウムのインターカレーション

○川口雅之, 倉崎章弘, 山田薫 (大阪電通大)

(117-297-B-2) 木炭細胞内腔に担持されたヘリンボン型炭素物質の硫酸相間化合物化と
膨張に伴うバネ状挙動

○斎藤幸恵 (東大院農学生命科学研究科)

(117-297-C-1) 二層、三層カーボンナノチューブの構造と物性

村松寛之¹, 林卓哉², 金隆岩², 遠藤守信^{1,2}

(信州大カーボン科学研究所¹, 信州大工²)

(117-297-C-2) 液パルスインジェクション法による気相成長繊維状炭素の高効率製造

○向井紳 (北大院工有機プロセス工学部門)

(117-297-C-3) ヨウ素不融化を鋳型作製プロセスに利用した多孔質炭素の調製

○宮嶋尚哉¹, 今井駿也¹, 阪根英人¹, 棚池修², 飯山拓³

(山梨大¹, 産総研², 信州大³)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：阿久沢委員（運営委員長）より以下の報告があった。

- (a) 現在会員数（1/28 現在） 正会員 766 名 学生会員 208 名 合計 974 名
賛助会員 53 社 58 口
- (b) 2 月セミナー 次世代リチウムイオン電池材料 2 月 4 日（開催済、38 名参加）
- (c) 先端講習会 エネルギー変換デバイスおよび電解プロセスに関わる炭素材料の劣化（京都テルサ） 6 月 17 日（金） 講演 5 件予定（定員 120 名）
- (d) 第 49 回夏季セミナー（倉敷市） 8 月 29 日（月）～31 日（水）
- (e) CARBON2011 参加補助 35 歳以下 若干名 5 月 16 日申込み締切。
- (f) スキルアップセミナー 燃料電池開発の現状とカーボン材料（総評会館） 講演 5 件 予定 9 月 2 日（金）
- (g) 10 月セミナー（日本教育会館） 10 月 14 日（金）
- (h) 第 38 回炭素材料学会年会（名古屋大学豊田講堂）11 月 29 日（火）～12 月 1 日（木）
- (i) 学会賞 7 月末締切
- (j) 日本学術振興会から以下の賞の候補者推薦依頼
 - ・第 8 回（平成 23 年度）日本学術振興会賞受賞候補者
 - ・第 2 回（平成 23 年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

- (k) 投稿規定の見直し、総説・解説・総合論文・速報等の定義付けを行っている。
- (l) 論文投稿数が以前より減少しているため、働きかけを行っていく。

(2) 国際会議関係

特になし

(以上)